東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 25 号 (2020),pp.239-252.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.25 (2020),pp.239-252.

〈特集「モダリティ」〉

タイ語のモダリティ
Modality in Thai

スニサー ウィッタヤーパンヤーノン(齋藤)
Sunisa Wittayapanyanon (Saito)

東京外国語大学世界言語社会教育センター
World Language and Society Education Center, Tokyo University of Foreign Studies

要旨：本稿は特集「モダリティ」(『語学研究所論集』第 16 号，2011，東京外国語大学)に寄与する．本稿の目的は 30 個のアンケート項目に対するタイ語データを与えることである．

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on 'modality' (Journal of the Institute of Language Research 16, 2011, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Thai data for the question of 30 phrases.

キーワード：タイ語，モダリティ
Keywords: Thai language, Modality

1. はじめに

本稿では，『語学研究所論集』 第 16 号特集「モダリティ」のアンケート項目の(1) から(30) までの例文の筆者によるタイ語訳を掲げ，それに適宜補足説明を加える．日本語の例文(1)に対して，異なるタイ語の語順にて，比較例示すべき複数の文が考えられる場合，(1)-1，(1)-2…として複数の文を示している．それに加え，各例文を説明する目的で別の文を追加している場合は，(1)-a，(1)-b…として記載している．また，タイ語において同じ位置で日本語に対応するタイ語語彙が複数ある場合は，[…/…] とし，どの語彙を使ってもよいということ示す他，<…>で示したものは非表示とすることが可能であることを意味している．また本稿のグロスで使用している略語については，本稿末に一覧を記載している．タイ語については，発音記号での表記としている．

2. タイ語訳文データ

(1) 【許可】「～してもいい」

「(その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ.」

(1)-1

＜càʔ＞	klàp	ləəy	kɔ̂ɔ	dâay	náʔ
AUX.FUT	return	right now	also	can	PTCL

(1)-2

klàp	dâay	náʔ
return	can	PTCL

本稿の著作権は著者が保持し，クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します．
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

許可を意味する助動詞 dâay を用いた複数の表現が可能である．(1)-1 は kɔ̂ɔ「～も」を付加することで，複数ある選択肢の中で「帰る」ことを選択肢の 1 つとして提示している．タイ語は意味・統語上の必須項の省略を許す Pro Drop 言語であり，文脈により主語あるいは目的語を省略することが可能であるため(峰岸&スニサー 2019)，ここで例示しているいずれの例文でも主語となる対話者は非表示としているが，終結小辞 náʔを入れることで対話者への許可をより明確に示すことになる．

(2) 【禁止】「～するな」

「(腐っているから，あなたは）それを食べてはいけない／それを食べるな.」

(2)-1

kin mây dâay náʔ

eat NEG can PTCL

(2)-2

yàa kin [náʔ/sìʔ]

AUX.PROH eat PTCL

(2)-3

hâam kin náʔ

TR.PROH eat PTCL

(2)-4

mây kin náʔ

NEG eat PTCL

(2)-1 では状況可能を示す助動詞 dâay を mây によって否定し，文末に行為要求の意味を有する終結小辞 náʔを付加することで不許可を示している．náʔがない場合は，「食べられない」という状況を説明する文となる．(2)-2 では禁止の意味を持つ助動詞 yàa を，(2)-3 では禁止の意味を持つ動詞 hâam を命題となる動詞とともに用いることで，禁止の命令文としている．(2)-2 で用いている yàa よりも，(2)-3 で用いている hâam の方が，禁止要求が強いニュアンスとなる．両文とも文末に行為要求の意味を有する終結小辞 náʔを用いることで表現を和らげることが可能となる．一方，(2)-2 で示した同意共感要求の機能を持つ終結小辞 sìʔ(スニサー 2017)は，命令文であることをより明示する機能を有する終結小辞となる．(2)-3 で用いている hâam は，命題内容が明らかであれば，単独で使用することも可能である．また，(2)-4 のように，否定を示す mây と文末に行為要求の意味を有する終結小辞 náʔを付加することで禁止を示すこともできる．

禁止を示すには，文脈によって義務の意味を持つ助動詞 tôŋ を用いることもある．

(2)-a

tôŋ mây khuy kan ráwàaŋ sɔ̀ɔp

must NEG talk together during test

「試験中，おしゃべりしてはいけない.」

(3) 【義務】「~しなければならない」

「(遅くなったので）私たちはもう帰らなければならない.」

(3)-1

phûakraw tôŋ klàp lɛ́ɛw

1.PL must return AUX.PRF

(3)-2

phûakraw	mây	klàp	mây	dâay	lɛ́ɛw
1.PL	NEG	return	NEG	can	AUX.PRF

(3)-1 は義務の意味を持つ助動詞 tôŋ を用いる文型となるが，(3)-2 のように状況可能の助動詞 dâay を含んだ二重否定の文型によって義務を意味することも可能である. 両文とも完了を示す助動詞 lɛ́ɛw を用いることで，「～する時間になった」という意味を持たせている.

(4) 【推奨】「~したほうがいい」
「（雨が降るそうだから）傘を持って出かけたほうがいいよ.」

(4)-1

phók	rôm	pay	dûay	dii	kwàa	náʔ
take	umbrella	go	together	good	COMP	PTCL

(4)-2

phók	rôm	pay	dûay	sìʔ
take	umbrella	go	together	PTCL

(4)-1 は比較文型となり，「傘を持って出かける」方が「傘を持たないで出かける」よりも良いということを示し, 推奨を表している. (4)-2 では, 同意共感要求の機能を持つ終結小辞 sìʔを命令文に付加した文型となる.

(5) 【評価的義務】「～するべきだ／～するものだ」
「歳をとったら，子供の言うことを聞くべきだ／聞くものだ.」

ʔaayúʔ	mâak	lɛ́ɛw	kɔ̂ɔ	khuan	faŋ	thîi	dèk	phûut	bâaŋ
age	a lot	AUX.PRF	so	should	listen	what	child	speak	sometimes

「～することが正しい」といった評価的義務の意を有する助動詞 khuan を使用した文型となるが，khuan の前に結果を示す kɔ̂ɔ「だから」を置くことで，「歳をとった」という理由で，その結果「子供の言うことを聞くべき」とのニュアンスとしている．タイ社会は年上を敬う傾向が強いため，本例文には違和感があるが，bâaŋ「時には/多少」を付加することで許容されるとみなしている．上記は「言うことを聞く」を「耳を傾ける」という意味での訳文であるが，「従う」という意味であれば，参考として「子供は大人に従うべき」という文でのタイ語訳を 5-(a)，5-(b)に例示する．(5)-a は，対話者が子供であり，「子供＝幼い/未熟であるので，大人の言うことを聞くべき」という意味であるのに対して，5-(b)は一般的に「子供は大人の言うことを聞くべき」という意味となる.

(5)-a

pen	dèk	kɔ̂ɔ	khuan	chûafaŋ	phûuyày
COP	child	so	should	follow	adult

「子供だから，大人の言うことを聞くべきだ」

(5)-b

dèk	khuan	chûafaŋ	phûuyày
child	should	follow	adult

「子供は大人の言うことを聞くものだ」

(6) 【希望】「～したい」

「お腹が空いたので，（私は）何か食べたい.」

hǐw	lɛ́ɛw	[yàak/tɔ̂ŋ kaan]	kin	ʔaray	kɔ̂ɔ	dâay	sák	yàaŋ
hungry	PRF	want	eat	something	also	can	just a	sort

希望を示す yàak や tɔ̂ŋ kaan を命題となる動詞とともに用いる文型となるが，tɔ̂ŋ kaan は書き言葉となり，口語では専ら yàak が用いられる. ʔaray＋kɔ̂ɔ dâay は, 複数の食べ物の中でいずれも可能, さらには文末に sák yàaŋ「1 つぐらい」という語を付加することで「何か 1 つ，何でも良いので食べたい」というニュアンスとなる. kɔ̂ɔ dâay を用いない場合,「お腹が空いたので，何か食べたいが，その何かが何なのかわからない」というニュアンスとなる．また，その場合は対話者への希望を伝えるのではなく，発話者の状態を説明する独り言として捉えられる可能性もある．但し，食べ物の提供という希望を対話者へ明確に伝えたい場合は，6-(a)のような文とするのが自然である．使役の意を持つ hây と命題となる動詞 kin「食べる」を用い,「対話者が発話者に食べさせる」という希望を伝えることになる.

(6)-a

hǐw	lɛ́ɛw	mii	ʔaray	hây	kin	máy
hungry	PRF	have	something	CAUS	eat	Q

「お腹が空いたので，何か食べるものはありますか.」

(7) 【意志】「（私が）～しよう」

「私が持ちましょう.」

(7)-1

<chán>	thŭɯ	[náʔ/máy]
<SBJ.1.SG.F>	take	[PTCL/Q]

(7)-2

hây	chán	thŭɯ	[náʔ/máy]
CAUS	OBJ.1.SG.F	take	[PTCL/Q]

(7)-3

<chán>	thŭɯ	hây	[náʔ/máy]
<SBJ.1.SG.F>	take	CAUS	[PTCL/Q]

(7)-4

hây	chán	thŭɯ	hây	[náʔ/máy]
CAUS	OBJ.1.SG.F	take	CAUS	[PTCL/Q]

(7)-1 は同意共感要求としての終結小辞 náʔを用い，発話者の意志を示す文となる（スニサー 2017）．また，náʔに代わって疑問小辞 máy を用いると，A(人)＋B(動詞) ＋máy「A が B をしましょうか」と対話者の意志を伺うことで対話者への提案となり，発話者の意志を示すことも可能である．なお，A に該当する主語となる chán は非表示とすることが多い．他にも，(7)-2，(7)-3，(7)-4 のように使役表現によっても発話者の意志を示すことも可能である．(7)-2 は，A＋hây＋B(人)で「A が B にさせる」という意味となるが，B に 1 人称表現が入ると，対話者からの許可を求めることで，発話者の意志を示すこととなる．なお，このケースでは主語となる A が対話者の場合は非表示とするのが一般的である．(7)-3 は，A(人)＋B(動詞)＋hây+C(人)「A が C のために B をしてあげる」という表現となるが，C に入る対話者は文脈上明らかなため，非表示とすることが多

く，7-(3)も非表示としている．また，文脈に応じて，A に該当する主語となる chán も非表示とすることもある．7-(3)の文型では C(対話者)のために何かをしてあげたいという意思を示す表現である． (7)-2 と(7)-3 の両方の意味を合わせ持つのが(7)-4 となる．A(人)＋hây＋B(人)＋C(動詞)＋hây+D(人)「A が B に D のために C をさせてあげる」という使役表現となるが，(7)-3 と同様 D に該当する対話者，そして主語となる A は同じく対話者であるが，ともに非表示とすることが多い．対話者のために行う発話者の行為への許可を求めることで発話者の意思を示している．

(8) 【勧誘】「（私たちが）～しよう」
「じゃあ，一緒に昼ご飯を食べましょう．」

ŋán	pay	kin	khâaw thîaŋ	dûaykan	<thɔ̀ʔ/náʔ/máy>
CONJ	go	eat	lunch	together	<PTCL/PTCL/Q >

結論/結果を示す接続詞 ŋán「それでは」を文頭に入れることで，対話者が昼食に行く意志があることを示した後，発話者が一緒に行くことを勧誘する文脈となる．勧誘の意味を有する終結小辞 thɔ̀ʔ，行為要求の意味を有する終結小辞 náʔ，もしくは対話者の意志を伺う疑問小辞 máy を付加することも可能である．

(9) 【相手の意向が不明な場合の勧誘】「～しませんか」
「一緒に昼ご飯を食べませんか？」

(9)-1

càʔ	pay	kin	khâaw thîaŋ	dûaykan	máy
AUX.INT	go	eat	lunch	together	Q

(9)-2

pay	kin	khâaw thîaŋ	dûaykan	<thɔ̀ʔ/náʔ/máy>
go	eat	lunch	together	<PTCL/PTCL/Q >

(9)-1 では意思の意味を有する助動詞 càʔを使用することで，相手の意向を確認する疑問文となるが，dûaykan「一緒に」を付加することで勧誘であることも示しており，相手の意向が不明な場合に勧誘表現として使用する．(9)-2 は(8)【勧誘】の訳文から ŋán「じゃあ」を除いたものとなるが，相手の意向が不明な場合でも勧誘表現として使用可能である．

(10) 【希望】「～といいなあ／～してほしいなあ」
「明日，良い天気になるといいなあ．／明日は良い天気になってほしいなあ．」

(10)-1

phrûŋníi	thâa	ʔaakàat	dii	kɔ̂ɔ	dii	sìʔ
tomorrow	if	weather	fine	so	good	PTCL

(10)-2

phrûŋníi	yàak	hây	ʔaakàat	dii	caŋ
tomorrow	want	let	weather	fine	PTCL

(10)-1 は thâa「もし」の後に仮定や条件を表す内容が入り，kɔ̂ɔ「それなら」の後には起こり得る結果や希望を示す内容が入る表現となるが，終結小辞 sìʔによって「良い天気になってほしい」という希望を強めている．(10)-2 はʔaakàat「天候」といった非生物を目的語とした使役表現と願望を表す yàak を組み合わせた表現

となり，終結小辞 caŋ によって希望の意味を強調している．

(11) 【命令】「～しろ」
「（私はここで待っているから）すぐにそれを持って来なさい．」

(11)-1

<kɛɛ>	pay	ʔaw	khɔ̌ɔŋ	nân	maa	dǐawníi
<2.SG>	go	take	thing	that	come	right now

(11)-2

<kɛɛ>	pay	ʔaw	khɔ̌ɔŋ	nân	maa	sìʔ	<dǐawníi>
<2.SG>	go	take	thing	that	come	PTCL	right now

命令文型は，①coŋ+動詞，②動詞，③動詞＋終結小辞 sìʔがあり，①は書き言葉で，②と③は話し言葉となる．(11)-1 は②の文型，(11)-2 は③の文型を使用している．(11)-2 では dǐawníi「すぐに」を非表示とすることがあるが，dǐawníi「すぐに」を用いる場合は，終結小辞 sìʔの後に間を空ける必要がある．また，これらの表現の主語は非表示となることが多いが，命令の対象者を特定する場合は主語を表示する必要がある．

(12) 【懇願】「～していただけませんか？」
「そのペンをちょっと貸していただけませんか？」

(12)-1

khɔ̌ɔ	yɯɯm	pàakkaa	dâam	nán	nɔ̀y	dâay	máy	[kháʔ/khráp]
TR.REQ	borrow	pen	CLF	that	a little	can	Q	[PTCL.F/PTCL.M]

(12)-2

khɔ̌ɔ	yɯɯm	pàakkaa	dâam	nán	nɔ̀y	náʔ	[kháʔ/khráp]
TR.REQ	borrow	pen	CLF	that	a little	PTCL	[PTCL.F/PTCL.M]

(12)-3

mây	sâap	càʔ	khɔ̌ɔ	yɯɯm	pàakkaa	dâam	nán	nɔ̀y	dâay	máy	[kháʔ/khráp]
NEG	know	AUX. FUT	TR. REQ	borrow	pen	CLF	that	a little	can	Q	[PTCL.F/PTCL.M]

(12)-4

hây	yɯɯm	pàakkaa	dâam	nán	nɔ̀y	dâay	máy	[kháʔ/khráp]
CAUS	borrow	pen	CLF	that	a little	can	Q	[PTCL.F/PTCL.M]

依頼の意味を表す動詞 khɔ̌ɔ の後には動詞またはモノなどの名詞が来るが， 疑問文＝(12)-1，平叙文＝(12)-2 のいずれの文型も可能である．(12)-1 では疑問文とすることで間接的表現となり，また(12)-1 と(12)-2 では nɔ̀y「ちょっと」を入れることで表現を和らげつつ，さらに終結小辞 háʔ/khráp を付加することで丁寧さを示している．(12)-3 では，(12)-1 の前に定型表現 mây sâap càʔ「～になるかは分かないが＝恐れ入りますが」を文頭に加えることで，より謙虚な姿勢を示している．また，(12)-4 のように使役表現と可能表現を組み合わせ，ここでは非表示となっているが対話者を主語として対話者視点で，発話者にペンを借りさせることについて対話者に許可を求める，といった文型とするのも懇願を示す表現の 1 つとなる．

(13) 【能力可能】「～できる」

「あの人は中国語が読めます．／あの人は中国語を読むことができます.」

(13)-1

khon	nán	<săamâat>	ʔàan	phaasăa	ciin	dâay
person	that	<can>	read	language	Chinese	can

(13)-2

khon	nán	<săamâat>	ʔàan	phaasăa	ciin	pen
person	that	<can>	read	language	Chinese	can

(13)-3

khon	nán	<săamâat>	ʔàan	phaasăa	ciin	ʔɔ̀ɔk
person	that	<can>	read	language	Chinese	can

(13)-1，(13)-2，(13)-3 は全て能力的に可能であることを示す表現となるが，それぞれ若干ニュアンスが異なる．(13)-1 で使用している dâay は汎用的に使用される能力可能や状況可能を示す助動詞となる．(13)-2 の pen は学習や練習によって後天的に可能となる技能・能力が使用可能であることに焦点を当てる場合に使用し，この場合であれば漢字の読み方や仕組みを理解し，読めるというニュアンスを示すこととなる．(13)-3 のʔɔ̀ɔk を使用する場合は，非常に難しい漢字や乱雑な字，崩し字といった特殊な文字を読むことができるといった意味を含むものとなる．いずれの訳文でも dâay/pen/ʔɔ̀ɔk とともに săamâat を使用することもあるが，非表示することが多い．逆に上記で述べた dâay/pen/ʔɔ̀ɔk で意味するニュアンスが文脈として明らかな場合，稀に dâay/pen/ʔɔ̀ɔk を非表示とし，săamâat だけとする場合もある．

(14) 【状況可能】「～できる」

「明かりが暗くて，ここに何が書いてあるのか，読めない.」

(14)-1

mûɯt	ʔàan	mây	dâay	wâa	khĭan	wáy	wâa	ʔaray
dim	read	NEG	can	COMP	writtem	STAT	COMP	something

(14)-2

mûɯt	ʔàan	mây	ʔɔ̀ɔk	wâa	khĭan	wáy	wâa	ʔaray
dim	read	NEG	can	COMP	written	STAT	COMP	something

(14)-3

mûɯt	ʔàan	mây	wăy	wâa	khĭan	wáy	wâa	ʔaray
dim	read	NEG	can	COMP	written	STAT	COMP	something

(14)-1 で使用されている mây dâay は，暗いという状況に起因し，文字の姿が見えずに読めないことを表している．(14)-2 の mây ʔɔ̀ɔk は文字自体の姿は見えるものの，暗くて何と書いてあるかが読めない状況であることを示している．また，(14)-3 の mây wăy はその暗さであれば，通常であれば読める人が多い可能性が高いかもしれないものの，発話者の視力が暗さよりも大きな要因となって読めない状況であることを意味するものである．

(15) 【確信】「～はずだ」

「（朝早く出発したから）彼らはもう着いているはずだ／もう着いたに違いない.」

(15)-1

phûakkháw	ʔɔ̀ɔkdəənthaaŋ	kan	tɛ̀ɛcháaw	tɔɔnníi	nâa càʔ	thŭŋ	léɛw	[náʔ/lɛ̀ʔ/lâʔ]
3.PL	leave	PL	early morning	now	AUX.INFER	arrive	PRF	PTCL

(15)-2

phûakkháw	ʔɔ̀ɔkdəənthaaŋ	kan	tɛ̀ɛcháaw	tɔɔnníi	nâa càʔ	thŭŋ	léɛw	nɛ̂ɛnɛ̂ɛ
3.PL	leave	PL	early morning	now	AUX.INFER	arrive	PRF	surely

根拠に基づく推量を示す時に用いる nâa càʔとともに (15)-1 では終結小辞 náʔ/lɛ̀ʔ/lâʔを用いることで，より確度の高い推量であることを示している．(15)-2 では，これらの終結小辞の代わりに，副詞 nɛ̂ɛnɛ̂ɛ「きっと」が同様の機能を担っている．

(16) 【推量】「～だろう」

「（あの人は）明日はたぶん来ないだろう.」

(16)-1

phrûŋníi	khon	nán	khoŋ càʔ	mây	maa	rɔ̀k
tomorrow	person	that	AUX.INFER	NEG	come	PTCL

(16)-2

phrûŋníi	khon	nán	khoŋ càʔ	mây	maa	nɛ̂ɛ	ləəy
tomorrow	person	that	AUX.INFER	NEG	come	surely	PTCL

(15)【確信】で用いた nâa càʔは根拠に基づく推量の際に使用するに対して，khoŋ càʔは根拠が不確かな場合に用いる表現となる．根拠がない推量であるものの，その可能性が高いことを示すため，(16)-1 では否定を強める rɔ̀k，(16)-2 では nɛ̂ɛ「確かに」とそれを強める ləəy といった表現と共起することがある．

(17) 【疑念】「～のではないか」

「彼らはまだ来ないなんて，きっと途中で車が壊れたんじゃないか.」

(17)-1

phûakkháw	yaŋ	mây	maa	rót	sĭa	klaaŋthaaŋ	rúplàaw
3.PL	yet	NEG	come	car	break	on the wat	Q

(17)-2

phûakkháw	yaŋ	mây	maa	sŏŋsǎy	rót	càʔ	sĭa	klaaŋthaaŋ	nɛ̂ɛ	ləəy
3.PL	yet	NEG	come	suspect	car	AUX. INFER	break	on the way	surely	PTCL

(17)-1 では疑問小辞 rúplàaw を用いて，疑問文型で疑念を表している．(17)-2 では sŏŋsǎy「疑う」という動詞で疑念を呈し，nɛ̂ɛ ləəy「確実に」によって，疑念を強めている．

(18) 【可能性】「～かもしれない」

「（昼間だからあの人は家に）さあ，いるかもしれないし，いないかもしれない.」

(18)-1

ʔùɯ	klaaŋwan	ʔàat càʔ	yùu	rŭɯ	＜ʔàat càʔ＞	mây	yùu	kɔ̂ɔ	dâay
INTJ	daytime	AUX.INFER	exist	or	AUX.PSBL	NEG	exist	also	AUX.PSBL

(18)-2

mây	rúu	sìʔ	klaaŋwan	ʔàat càʔ	yùu	rŭɯ	＜ʔàat càʔ＞	mây	yùu	kɔ̂ɔ	dâay
NEG	know	PTCL	daytime	AUX. PSBL	exist	or	AUX. PSBL	NEG	exist	also	AUX. PSBL

(18)-3

mây	nɛ̂ɛcay	náʔ	klaaŋwan	ʔàat càʔ	yùu	rŭɯ	＜ʔàat càʔ＞	mây	yùu	kɔ̂ɔ	dâay
NEG	sure	PTCL	daytime	AUX. PSBL	exist	or	AUX. PSBL	NEG	exist	also	AUX. PSBL

上記のいずれの訳文でも用いられているʔàat càʔは可能性を示す場合に用いられる表現となり，文末に kɔ̂ɔ dâay「～も可能である」と共起してよく使用される．(18)-1 では間投詞ʔùɯ「さあ」，(18)-2 では mây rúu sìʔ「分からないが」，(18)-3 では mây nɛ̂ɛcay náʔ「確信はない」といった表現を前置きにそれぞれ用いることで，いずれの選択肢の可能性があることを示している．なお，2 つ目のʔàat càʔは非表示することもある．

(19) 【視覚／聴覚以外の感覚による判断】「～ようだ」

「(額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ.」

(19)-1

[duumŭan /duuthâa / thâathaaŋ/rúusùk/nâaklua]	khun	càʔ	mii	khây	náʔ
[it looks/it looks/ it looks/feel/be afraid]	2.SG	AUX.INFER	have	fever	PTCL

(19)-2

khun	nâa càʔ	mii	khây	náʔ
2.SG	AUX.INFER	have	fever	PTCL

duu は「見る」という動詞であるが，duu が含まれた duumŭan/duuthâa といった語も手で触るといった触覚による判断においても使用可能である．thâathaaŋ は「様態」の意となり，こちらも視覚に関連する語となるが，この語も同じく触覚による判断にも使用可能である．rúusùk「感じる」を用いる場合は触覚による判断を示す場合に，nâaklua「心配である」については，熱があることに対する不安といった主観的な判断を示す場合にそれぞれ用いる表現となる．また，触覚という根拠に基づく推量となるため，(15)【確信】で使用している nâa càʔを含んだ文も(19)-2 のように使用することが可能である．

また，duumŭan/duuthâa/nâaklua については，他者からの症状説明といった口頭での言語情報や医師の診断書といった文字情報などを根拠にした判断の場合でも使用することが可能である．

(19)-a

[duumŭan/duuthâa/nâaklua]	khun	càʔ	tâŋthɔ́ɔŋ	náʔ
[it looks/it looks/be afraid]	2.SG	AUX.INFER	pregnant	PTCL

「(対話者の症状の説明や他の医者の診断書を見て) どうもあなたは妊娠しているようだ.」

(20) 【伝聞】「～そうだ」

「(天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ.」

(20)-1

dâyyin	wâa	phrûŋníi	fŏn	càʔ	tòk
hear	COMP	tomorrow	rain	AUX.FUT	fall

(20)-2

phayaakɔɔn	ʔaakàat	bɔ̀ɔk	wâa	phrûŋníi	fŏn	càʔ	tòk
forecast	weather	say	COMP	tomorrow	rain	AUX.FUT	fall

(19)で用いた duumŭan/duuthâa/thâathaaŋ/rúusùk/nâaklua は，発話者の判断が加わるのに対して，(20)-1，(20)-2 とも発話者の判断は加わっていないものとなる．(20)-1 のように動詞 dâyyin「聞く」を用いることで伝聞を示すことができる．この日本語文であれば，(20)-2 のように phayaakɔɔn ʔaakàat「天気予報」を主語として，bɔ̀ɔk「言う」と組みわせた表現も可能である．

(21) 【反実仮想】「～だったら～するのだが」

「もしお金があったら，あの車を買うんだけれどなあ.」

thâa	mii	ŋən	<kɔ̂ɔ>	càʔ	sɯ́ɯ	rót	khan	nán	[náʔ/lɛ̀ʔ/lâʔ]
if	have	money	so	AUX.INT	buy	car	CLF	that	PTCL

接続詞 thâa「もし」を用いて条件文を設定し，意思を示す助動詞 càʔを用いた文型となる．終結小辞 náʔ/lɛ̀ʔ/lâʔを付加することで，今は実現できない反実仮想の願望を表すことになる．

(22) 【反実仮想過去】「～だったら～したことだろう」

「もしあなたが教えてくれていなかったら，私はそこにたどり着けなかったでしょう.」

(22)-1

thâa	khun	mây	bɔ̀ɔk	chán	khoŋ càʔ	yaŋ	pay	mây	thŭŋ	thîinân	nɛ̂ɛnɛ̂ɛ
if	2.SG	NEG	say	1.SG.F	AUX.INFER	yet	go	NEG	reach	there	surely

(22)-2

thâa	khun	mây	bɔ̀ɔk	chán	ʔàat càʔ	yaŋ	pay	mây	thŭŋ	thîinân	kɔ̂ɔ	dâay
if	2.SG	NEG	say	1.SG.F	AUX.PSBL	yet	go	NEG	reach	there	also	PSBL

(22)-3

thâa	khun	mây	bɔ̀ɔk								
if	2.SG	NEG	say								
pen pay dâay		wâa	chán	ʔàat càʔ	yaŋ	pay	mây	thŭŋ	thîinân	kɔ̂ɔ	dâay
possibly		COMP	1.SG.F	AUX.PSBL	yet	go	NEG	reach	there	also	PSBL

(21)【反実仮想】と同様 thâa「もし」を用いた文型となるが，仮想過去の事象については，根拠が不確かな推量の意を持つ khoŋ càʔや可能性を示すʔàat càʔによって表現することとなるが，(22)-1 は実際には起きていないことを推量することで，(22)-2 は現実とは異なる別の結果が生じる可能性を示すことで，それぞれ反実仮想過去を示している．また，(22)-2 では，kɔ̂ɔ dâay「～という状況もあり得る」を付加することで，現実とは異なる別の結果もあり得たことも示唆している．また，(22)-3 の pen pay dâay wâa「～ということもあり得る」という可能性を表す表現をさらに加えた文も使用される．この日本語文には「まだ」という語は含まれていないが，タイ語で訳出する場合，yaŋ「まだ」を加えることで，反実仮想過去であることをより明確に示すことが可能となる．一方，肯定文の場合，(22)-a のように完了を示す lɛ́ɛw を用いることで，より明確に反実仮

想過去の意を示すこととなる．さらに，断定を示す lâʔ/lɛ̀ʔを使用すると，その可能性が強いことを表すこととなる．

(22)-a

thâa	fŏn	mây	tòk	kɔ̂ɔ	khoŋ càʔ	pay	lɛ́ɛw	[lâʔ/lɛ̀ʔ]
if	rain	NEG	fall	so	AUX.INFER	go	AUX.PRF	PTCL

「もし雨が降らなかったら，行っただろうな.」

(23) 【3 人称の主体による希望】「～したがっている」

「(あの人は) 街へ行きたがっている.」

<khon	nán>	[yàak/tɔ̂ŋkaan]	＜càʔ＞	[khâw/pay nay]	mɯaŋ
<person	that>	want	AUX.INT	enter	town

主語である khon nán「あの人」を非表示とすることも可能であるが，主語の人称の違いによって表現の差はないため，非表示とすると文脈によっては発話者の希望と解釈することも可能である．文脈によって主語が明らかな場合にのみ，主語を非表示とする．

(24) 【1 人称命令】「(私に) ～させろ」

「僕にもそれを少し飲ませろ.」

(24)-1

hây	＜phŏm＞	kin	[bâaŋ/nɔ̀y]	＜sìʔ/thɔ̀ʔ＞
CAUS	1.SG.M	take	a little	PTCL

(24)-2

hây	＜phŏm＞	kin	dûay	＜sìʔ/thɔ̀ʔ＞
CAUS	1.SG.M	take	together	PTCL

使役を意味する hây「～させる」とともに， (24)-1 では命令の意を持つ終結小辞 sìʔや強い依頼の意の thɔ̀ʔを共起させることで，命令の意をより明確に表している．nɔ̀y には「少し」の意味を示す他，依頼文を和らげる機能もあるが，bâaŋ には「一部/少し」といった意味の他にもこの文脈では「～にも」といった意味を含んでいる． (24)-2 の dûay には「～にも」の意味のみを示すこととなる．

(25) 【3 人称命令】「(彼に) ～させろ」

「これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう.」

nîi	hây	<khon	nán>	[thŭɯ/hîw/ khŏn/bɛ̀ɛk/ʔaw]	pay	[sìʔ/thɔ̀ʔ]
this	CAUS	<person	that>	take	go	PTCL

(24) 【1 人称命令】と同様，使役の文型が可能であるが，終結小辞には命令の意の sìʔや強い依頼の意の thɔ̀ʔを用いている．また，目的語となる khon nán「あの人」が文脈上明らかな場合は非表示することも可能となる．

(26) 【遠未来命令形】「(あとで) ～しろ」

「そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい.」

khanŏm	bon	tóʔ	tua	nán	<kèp>	wáy	kin	<thiilǎŋ>	[náʔ/lâʔ]
confectionery	on	table	CLF	that	<keep>	AUX	eat	<afterwards>	PTCL

wáy は「しておく」という状態を示す助動詞となるが，この語によって「お菓子を取っておき，後で食べる」という表現となる．wáy があれば kèp「取っておく」と thiilǎŋ「後で」は非表示とすることもでき，wáy のみで遠未来を表すことが可能となる．また，終結小辞 náʔ/lâʔを付加することで，命令や依頼の意味を明確にすることができるが，lâʔの方が「今は不可」であることのニュアンスがより強いものとなる．

(27) 【反実仮想】「～だったら～するのだが」
「もっと早く来ればよかった.」

nâa càʔ	maa	rew	kwàa	níi
AUX	come	early	COMP	this

比較文型の中で，nâa càʔを用いることで，事実としての到着時間 níi「この（到着時間）」の比較対象となる仮想としての早い到着時間の方がより良い選択肢であったという後悔と推奨の意味を同時に表している．

(28) 【脱従属化】「～したら（どうか）」
「あなたも一緒に行ったら（どうですか）？」

(28)-1

khun	kɔ̂ɔ	pay	dûaykan	sìʔ
2.SG	also	go	together	PTCL

(28)-2

khun	mây	pay	dûaykan	lâʔ
2.SG	NEG	go	together	PTCL

(28)-3

khun	mây	pay	dûaykan	rə̌ə
2.SG	NEG	go	together	Q

(28)-4

khun	nâa càʔ	pay	dûaykan	náʔ
2.SG	AUX	go	together	PTCL

(28)-1 は同意共感要求の機能を有する終結小辞 sìʔ（スニサー 2017）を文末に付加することで強い推奨となり，「どうですか」の訳出を不要としている．(28)-2 は否定形と終結小辞 lâʔを，(28)-3 は否定形と疑問小辞 rə̌ə をそれぞれ共起させることで推奨の意味を示し，「どうですか」の部分を同じく非表示とすることを許容可能なものとしている．一方，(28)-4 で推奨の助動詞 nâa càʔと行為要求の終結小辞 náʔ（スニサー 2017）を共起させる用法でも推奨のニュアンスとなる．

(29) 【（疑問詞を含まない）反語】「～か！」
「オレがそんなこと知るか！」

(29)-1

khray	càʔ	pay	rúu	rûaŋ	nán	[lâʔ/lâw]
INDF	AUX	DIR	know	story	that	PTCL

(29)-2

khâa	càʔ	pay	rúu	rûaŋ	nán	dâay	ŋay	[lâʔ/lâw]
1.SG.M	AUX	DIR	know	story	that	can	how	PTCL

(29)-1 では khray「誰が」とともに，càʔ pay を使用することが反語表現として必要となる．一方，(29)-2 のように 1 人称表現 khâa「俺」を主語することも可能であり，(29)-1 と同じく càʔ pay を用いる必要があるとともに，状況可能の助動詞 dâay「できる」と ŋay「どう？」を合わせて用い，「どうやってできる」の意を表している．なお，lâʔ/lâw を付加すると答えを求めていることとなり，「(発話者が）そんなことは知らない」という反語の意を強めることとなる．

(30) 【付加疑問】「～よね!?」
「これを作った（料理した）のは，お母さんだよね？」

(30)-1

khon	thîi	tham	ʔaahǎan	nîi	mɛ̂ɛ	chây	máy/rúplàaw
person	REL	make	cuisine	this	mother	that is so	Q

(30)-2

khon	thîi	tham	ʔaahǎan	nîi	mɛ̂ɛ	[sìʔ/nə́ʔ]
person	REL	make	cuisine	this	mother	PTCL

「いいえ，私が作ったのよ.」

(30)-3

mây	chây	chán	tàaŋhàak
NEG	that is so	1.SG.F	on the contrary

(30)-4

plàaw	chán	tàaŋhàak
NEG	1.SG.F	on the contrary

(30)-5

mây	chây	chán	tham	[yâʔ/lɛ̀ʔ/lâʔ/rɔ̀k]
NEG	that is so	1.SG.F	make	PTCL

(30)-6

plàaw	chán	tham	[yâʔ/lɛ̀ʔ/lâʔ/rɔ̀k]
NEG	1.SG.F	make	PTCL

(30)-1，(30)-2が疑問文に該当する第１文目，(30)-3，(30)-4，(30)-5，(30)-6が応答文に該当する第２文目を訳出したものとなる．(30)-1では文全体を指示するchây「そう」と疑問小辞máy/rúplàawを共起させ，情報の確認を行っている(スニサー 2017)．(30)-2では対話者への同意共感要求の機能を持つ終結小辞sìʔ/nə́ʔを付加し，聞き手に賛同を求める文とすることでも訳出が可能である．(30)-3，(30)-5では付加疑問文で用いたchây「そう」を否定する形式であるが，(30)-4，(30)-6では付加疑問文も含めた疑問文全般において否定で答える際に用いるplàawを用いている．(30)-5，(30)-6で付加されているyâʔ/lɛ̀ʔ/lâʔ/rɔ̀kは，意見修正要求の機能を有しており，対話者や発話者自身が既に述べた意見や考え方などに対して，発話者が不賛成や異議があることを表し，前出の意見を修正することを求める意を示している．

略語リスト

1	一人称	first person	INFER	推量	inferential
2	二人称	second person	INT	意思	intention
3	三人称	third person	INTJ	間投詞	interjection
ADV	副詞	adverb	M	男性	masculine
ASP	アスペクト	aspect	NEG	否定	negation, negative
AUX	助動詞	auxiliary	OBJ	目的語	object
CAUS	使役	causative	PL	複数	plural
CLF	類別詞	classifier	PRF	完了	perfect
COMP	比較	comparative	PROH	禁止	prohibitive
COMP	補文マーカー	complementizer	PSBL	可能性	possible
CONJ	接続詞	conjuction	PTCL	小辞	particle
COP	コピュラ	copula	Q	疑問小辞	question particle
DIR	方向接辞	directional prefix	REL	関係詞	relative
EMPH	強調	epenthesis	REQ	依頼	request
F	女性	feminine	SBJ	主語	subject
FOC	焦点	FOC	SG	単数	singular
FUT	未来	future	STAT	状態	stative
HS	伝聞	hearsay	TR	他動詞	transitive
INDF	不定代名詞	indefinite			

参考文献

峰岸真琴・スニサー ウィッタヤーパンヤーノン．2019.「タイ語の主題とその談話での現れ方について」，『言語の類型的特徴対照研究会論集』第 2 号，pp.111-135.

スニサー　ウィッタヤーパンヤーノン．2017.「タイ語話し言葉コーパスから見た「語用論的終結小辞」」，『アジア・アフリカ言語文化研究』94 号，pp.111-136.

スニサー　ウィッタヤーパンヤーノン．2017.『表現を広げる中級へのタイ語』，三修社.

スニサー　ウィッタヤーパンヤーノン．2016.『表現を身につける初級タイ語』，三修社.

執筆者連絡先：sunisa@tufs.ac.jp

原稿受理：2020 年 12 月 15 日